



浄妙寺

発行

鎌倉市老人クラブ連合会
発行人 高橋 清良
編集人 都筑 健一
大橋 孚
中田 良司
高橋 斌
〒248-8686
鎌倉市御成町18-10
鎌倉市老人クラブ連合会
(愛称・ゆめクラブ鎌倉)
(0467) 23-3000

第52号

印刷 (株)博報社 大阪市平野区喜連西4-6-69

(06) 6797-0212

浄妙寺

山号は稲荷山。臨済宗建長寺派。鎌倉五山第五位。足利尊氏の七代祖義兼が文治4年(1188)に創建した寺院で、初め極楽寺と称した。開山は退耕行勇、当初は真言宗密教系の寺院であったが、蘭溪道隆の弟子月峯了然が住職になってから禅刹に改めた。また、寺号も浄妙寺と称するようになった。

その後、たびたびの火災や戦火を受けて、浄妙寺は次第に衰退していった。

大正12年(1923)の関東大震災で、ほとんどの建物は倒壊した。

現在は、総門・本堂・客殿・庫裡などからなる伽藍で、稲荷山の額を掲げてある総門は禅刹の風格をもち、総門から本堂へ広がる静寂な境内は鎌倉五山第五位の寺格を保っている。

作家 佐江衆一氏 / 鎌倉市老連 高橋清良会長 (於: 浄妙寺)



佐江 当時は、貧乏でも、みんな助け合って生きていましたよ。江戸っ子気質で。
佐江 その後、学童疎開をした経験や、自分が何が好きでどうしたら幸福になれるのかを考えた結果、作家になろうと決めました。同じようなものを書きたくないから、実験的な、新しいものを書

高橋 本日はご足労いただき、ありがとうございます。「人生は五十歳からが面白い」とおっしゃる先生の生き方が、我々の活動のヒントになると思っています。よろしくご教授の程お願い致します。
佐江 いやいや、こちらこそ。老人クラブの皆さんは、僕よりはるかに経験をお持ちですか

高橋 先生は浅草でお生まれになつたそうですね。
佐江 そうです。家は蔵前の質屋でした。土地柄、お客は踊り子や下位の力士が多く、花やしきや浅草ロックが遊び場でしたから、まかせていましたね。下町の人情や、男女の問題も子供の頃に知りました。



高橋 「横濱ストリートライフ」(注)は、おいくつの時の作品ですか?
佐江 四十九歳の時です。僕は

対談 六十歳からが面白い
軽やかに、豊かに老いを生きるために

考えるより体が先に行く方なので、まずその中に入って生活してみました。借金から逃げたり、故郷に帰れなくなったり、体や精神に傷を持った人たちはかりが集まった弱肉強食の世界です。そして、ホームレスの世界にも、老いの問題があります。日雇いの仕事も年を取っているから雇ってくれず、朝から酒を飲んでいいるから、アル中の人が多い。その一方で、やさしさの世界もある。そこまで落ちて老人になつた人の、老いの生き方の場所でもあるんです。ある意味、老いのユートピアの世界とも言えます。「俺、駄目だったらここに来ればいいんだ」と思い、帰って来ました。
高橋 下町と同じような、人情味のある世界なんですね。

鎌倉市の人口171,810人 高齢化率(65歳以上)全市23.4%(地区別 鎌倉地区35.0%、腰越地区35.0%、深沢地区29.7%、大船地区28.9%、玉縄地区25.8%)平成16年4月1日現在
鎌倉市老連会員数 4,598人 地区別 鎌倉地区1,613人(35.08%) 腰越地区447人(9.72%) 深沢地区794人(17.27%) 大船地区1,041人(22.64%) 玉縄地区703人(15.29%) 平成15年6月1日現在
鎌倉市老連ホームページアドレス http://members.at.infoseek.co.jp/roukura メールアドレス yumekama@onyx.dti.ne.jp 地区別%は60歳以上

Table with 5 columns and 2 rows, currently empty.



老人の「死に方」と「生き方」

高橋 先生は「黄落」と「老熟家族」で、ご両親の介護をされた経験をお書きになつていますが、たいへん興味深く読みました。
佐江 僕は、母が「死にたい」と言つたので、最後の

佐江 僕が師匠と仰いだホームレスの老人は「市民の目につくところに寝て、迷惑をかけるはいけない。ルンペンにはルンペン道というものがある」と言っていました。ルンペン道とはつまりルンペンの誇り、意地です。都会の仙人と思いましたが。金持ちより立派な人間。東北の人でした。
注「横浜ストリートライフ」：昭和五十八年に起きた中学生によるホームレス殺傷事件をきっかけに、自ら横浜のドヤ街でホームレスの人々と寝食を共にし、その経験を書いた作品。

佐江 出たがらない人は出ないで、流れる雲を見ていてもいい。定年後のことは、五十歳くらいから考えるべきです。老齢になつてから急に生き方を変えようとしても、そうそう変わりませぬから。
僕の場合は、五年ごとに何かをやることにしています。五十歳を過ぎてから、剣道や英会話、芝居などをやってきましたが、毎年、

希望をかなえて、見て見ぬふりをしたんです。僕は自分が生きる価値がないと思えば、死にたいですね。延命医療はしない。また、父は九十八歳の誕生日を目前にして亡くなりましたが、生きながらえた時の死に方を教えてもらいました。
高橋 しかし、それは周りの理解がないと、なかなか難しいことですね。
佐江 そうです。どれだけ本人が家族に自分の意思を正しく伝えられるかにかかってくるんですね。
高橋 では、今度は老人の「生き方」についてお聞きします。六十五歳から七十五歳の前期高齢者で、外に出たがらず、家に閉じこもっているうちに病人になり、やがて介護が必要になつてしまふ人がたいへん増えていきます。こういう人たちには何かアドバイスをいただけませんか。

世界の熱帯雨林への植栽をしています。現地へ行き、汗を流して実際に木を植えています。これは、僕の死後の夢でもあるんです。僕が植えた木々は、あと四十年経てば大自然の森になります。僕が死んで宇宙の灰になつた時、自分の植えた所が地球のあちらこちらで緑になつているのを、宇宙から見てみたいんです。
高橋 夢を持つこと、そして実行することが大事ということですね。
佐江 会員の皆さんも、自分のできる夢をそれぞれ持つべきです。ゴミを拾つて鎌倉をきれいにするのもひとつの夢。人に認められるとか、そういうことではな

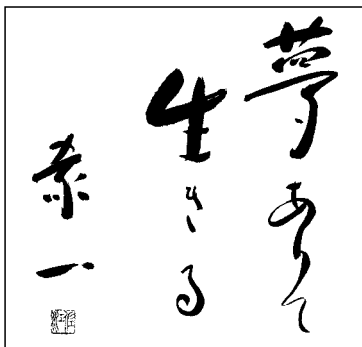
熟して たまるか！

高橋 先生の著書「50歳から面白い」に「熟してたまるか」という言葉が出てきますが、とてもいい言葉ですね。
佐江 これは、剣道八段の試験(合格率〇・八%、日本で一番難しい試験といわれている)を十七年間受け続けている、七十八歳の先生がおっしゃった言葉です。僕が「先生は実力がありません。僕が、段なんたいいいじゃないですか」と言つたら「いや、俺はやり

続けるよ。熟してたまるか」という言葉が返ってきたんです。ですが、これは決して老いを否定する言葉ではありません。老いを嫌ってはいけません。必ず人間は老いて死ぬんだから。
僕は挑戦という言葉は好きではないんです。もつと軽い気持ちで、軽やかに生きたい。それが老境に入った人間の生き方だと思いません。いい老人として、豊かな生き方をしたい。それは一方で寂しいことでもあります。だからといって「老人と言われるのは嫌」と言つたり、老いを怖がるのは駄目。老いを豊かに受け入れるべきです。

佐江衆一氏プロフィール

佐江衆一 さえ・しゅういち
作家。1934年(昭和9年)東京生まれ。文化学院卒。コピーライターを経て、1960年(昭和35年)「背」(新潮社同人雑誌賞)で作家デビューする。「北の海明け」で新田次郎文学賞、「黄落」でドゥ・マゴ文学賞、「江戸職人綺譚」で中山義秀文学賞を受賞。他に「横浜ストリートライフ」「老熟家族」「50歳から面白い」「捨剣夢想権之助」「わが屍は野に捨てよ」など多数の著書がある。



続けるよ。熟してたまるか」という言葉が返ってきたんです。ですが、これは決して老いを否定する言葉ではありません。老いを嫌ってはいけません。必ず人間は老いて死ぬんだから。
僕は挑戦という言葉は好きではないんです。もつと軽い気持ちで、軽やかに生きたい。それが老境に入った人間の生き方だと思いません。いい老人として、豊かな生き方をしたい。それは一方で寂しいことでもあります。だからといって「老人と言われるのは嫌」と言つたり、老いを怖がるのは駄目。老いを豊かに受け入れるべきです。

高橋 「老人」とは本来良い意味の言葉ですからね。
佐江 人間には喜怒哀楽があります。僕が小説を書いているのは、喜怒哀楽を書きたいから。楽しいだけじゃ人生面白くないでしょう。そういうふうには、考え方を変えてほしい。自分で考えてみるべきです。
高橋 最後になりましたが、先生は今後どんなことをしようとお考えですか。
佐江 七十歳の今年は、七月から約三カ月間、世界一周のクルージングに行つてきます。一人になつて、次に何をやるか考えてこようと思ひます。

高橋 お一人で世界一周とは、とても度胸のいることですね。今回お話を伺つて、先生の「老いを怖がってはいけない」「老いを豊かに受け入れる」というお言葉はとても印象に残りました。我々も「老人」という言葉に誇りを持って、活動していきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

離山ちとせ会

互の親睦を深めることをモットーに、さまざまな活動に取り組んでいる。

健康づくりとしては、ゲートボール(毎週月・水・金)、歩こう会(第二火曜)を実施し、それぞれ二十名ほどの参加者で賑わっている。特に、昭和五十八年から二十年來続けている歩こう会は、市内の他、道了尊・井の頭公園・神奈川宿歴史の道・観桜(川崎)など行き先に工夫を

凝らしていること、そして訪問先の歴史・史蹟・鳥・花などについての現地解説が好評で、毎回学習意欲にわく参加者で活況である。

また、教養・文化活動と奉仕活動としては、数年前前から行っている「ちとせ句会」、花壇作り、古切手集め(昨年は八百枚収集)、クリーンデーでの空き缶収集(年間六千缶)、地藏堂の世話などを実施している。その他にも会員のニーズにあった活動を進めているが、特に会員から絶大な人気を得ているのは、毎月の定例会の中で行っている伴奏つきでの唱歌合唱。会長が演奏するピアノやオルガンに合わせて歌うもので、毎回

クラブの動き

二階堂白寿会

旧例を脱し、 老いはまた 喜びなり

月一度の集会のはじめに、誕生月の人たちに順番に自由にしゃべってもらっている(集会は、新年宴会、総会、慰霊祭、喜寿のお祝いなどの「楽寿会」、例会)。ここ五年続いているが、最近では堂々と自分史の一部を、また病氣回復の報告などユーモアをまじえてなかなか上手にしゃべる



人が多い。また、時には会員の市議の報告を聞いてディスカッション、多くの人が活発に発言し賑やかな様相を呈してきた。一方通行の伝達ではなく、参加者全員がしゃべりたくなる席で意識を高めるこ



五曲、年間のレパトリーは六十曲を超える。今後も唱歌合唱のよくな誰かが楽しく参加できるもの、また教養を高めるような活動をすすめる、心と脳の活性化を図りたいと考えている。
伊藤 仁

稲村ガ崎稲穂会

光明寺の法話

法話は、七月四日十時、十一時の約一時間、参加人員は六十二名。光明寺執事教務部長、阿川文叡様のお話でした。
一、法然聖人が四国へ島流しにされた時「有難いことだ」と言われた。何故かと問うと「また違う所で布教ができる」。何事も前向きに良い方に解釈すれば、人生楽しく悩みなく生きることができるとはならないか。
二、人は必ず死ぬ。足腰が立たなくなることもある。そうならない前に、できるだけ多くの人たちと話し合い、友達になり、いざという時、孤独にならないよう、日頃の心掛けが大切。



三、今の子供は躰ができていない。親子の間で注意すると角が立つことも、おばあさんが言えば素直に受けとれることもある。挨拶の仕方、靴の脱ぎ方など、子供の躰について上手に教えることは、年寄りの仕事としてあるのではないか。
などの法話がありました。
小倉 弘二

とが大事なことなのだと思

私が入会した時の会合ではいつも、日の丸が掲げられ、君が代斉唱で始まり、解散の時には「延寿和讃」という冊子が配られ全員で唱和していた。「いつも明るく清らかに、好かれる爺(婆)となるようにノ手まめ足まめ働いて、世間のために尽くすべし...」当たり前前のことをいっているのだけれど、押しつけ言葉には抵抗があつて、五年前、私が六十六歳で会長になった時、日の丸・君が代・「延寿和讃」全部ご遠慮いただき、誕生会のおとにはハッピーバースデーを全員で唄った。二十も三十も昔に比べ若返った老人の

時代であるのに、ジジババ・君が代では若い老人は入会して来ない。やはり会独自の魅力ある内容にしないと、入会を誘ってはくれない。

それで、「教養講座」に重きをおいている。「健康を維持して生きる知恵」「死に対する心構え」「好奇心を刺激し読書につなげる親しい文化人(久米正雄・原節子など)の生き様」などを私が話し、会員の中からも、趣味の話・外地で得た面白い話など、外部からも「空巢撃退の心構え」など、また瀬戸内寂聴・日野原重明のテープ・ビデオも活用し、日常生活上・精神衛生上に何か役立つおみやげをさしあげたい一念だ。

この他 護良親王墓の清掃 童謡教室 散策の会は鎌倉は一巡し、逗子・金沢・藤沢まで足をのびしている。

ここ一年の会のモットーは、①(具体的な短・中・長期な)目標を持つ②今からでも遅くない③やれば出来る、この三つを会員の合言葉としている。
なお、白寿会は、市から獅子舞の「老人農園」の運営を委託され、会員の三分の一は、二階堂以外の近隣地区の人である。昨年の総会で最多五十八人の出席があり、例会は四十人位、以前は女性が圧倒的に多かったが現在は男女半々に近づいてきた。

門田 京藏

本殿遷座祭を 奉仕して



鶴岡八幡宮宮司
吉田 茂穂

現在の鶴岡八幡宮のご本殿は、文政四年(一八二二)一月に全焼して同十一年(一八二八)に再建されたもの。三間社三殿を連絡した流れ権現造りです。

に、百年の大計を樹てて文化庁の指導を受けながら取り進むこととなり、まずは御本殿、楼門のお屋根葺き替え、漆塗替えの工事から実施されたのです。

本殿から幣殿(神職が神様に御奉仕するところ)、拝殿を楼門、廻廊が囲み、東西に脇門を持つ社殿形態は独自のもので、全体の構成から細部に至るまでの華やかなまどまりは、江戸時代の代表的な神社建築であるといわれております。朱漆塗りを主調に極彩色が施され、大石段下の正面に舞殿形式の下拝殿が配されたものです。

以降、修復工事期間中には種々と文政年間の建造当時のものを眼にする機会を得ました。すなわち、屋根板、柱などには墨痕鮮やかに、天下泰平、五穀豊饒などと棟梁や宮大工たちの願いが書かれておりました。中には家人の病気を気遣う文字などもあつて感動致しました。ですから八幡様の社殿自体が建てられてゆく過程で、種々な願い、想いが込められて完成をみたものなのです。

その事業は永年、風雨にさらされ、社殿の傷みも激しく、当宮の歴史的、文化的価値の保全を図るため

そして工事の終了した昨

秋、十一月二十一日夜、本殿遷座祭を斎行致しました。それは、古く建久二年(一一九二)のむかし、源頼朝がそれまでであった八幡様の社地(大石段下)を一段高く、大臣山を切り拓いて壮麗な鶴岡八幡宮を創建した十一月二十一日、「その日、その時」でした。

入御されました。この間、奉拝席の参列者は大神様が眼前をお通りになると恐ろしい御神威を、それぞれに感じたことでした。そして、あかりの消えた境内の空は降るような満天の星が、きらきらと輝いておりました。

再び、明かりが灯され、約五百人の参列者は大石段を昇つて楼門内、廻廊の参列席に移動しました。御本殿ご神座にお鎮まりになつた大神様へお供物が献じられ、祝詞奏上、参列者代表久保田雅彦鎌倉商工会議所会頭の玉串拝礼ののち、御本殿隣の末社・武内社に対しても献饌、祝詞奏上、玉串拝礼。そのあと、鎌倉市の無形文化財指定の八乙女舞が奏され、本殿遷座祭は厳肅のうちに滞りなく斎行されたのでした。

午後六時、宮司以下奉仕員が社務所前に列立。そして参進して修祓、仮殿・若宮にて祝詞奏上ののち、境内の一切の明かりが消されて、浄暗のうちに、大神様に供奉する所役の召立てとなりました。召立てられた供奉員の「オー」と呼ぶ声の静寂の中に響きました。やがて百名にのぼる神職、氏子代表が供奉して、いよいよ遷座となりました。

翌二十二日には長くも天皇陛下より幣帛料が御下賜され、各界代表、奉賛会役員、氏子崇敬者ら約六百人

が参列、午前十時より御本殿遷座奉幣祭が厳しく斎行されました。神饌が供えられ、続いて御幣帛が神前に供され、祝詞奏上ののち、神社本庁幣が奉られ、献幣使の祭詞奏上、上野豊当宮責任役員らの玉串拝礼があつて無事、御本殿遷座奉幣祭を終了しました。

古来、神様は遷座祭のような重儀のご奉仕をお受けになると若返られると信じられております。若返つた御本殿には若返つた大神様が改めて、お鎮まりになつたわけです。

朝日に輝く赤銅色の御屋根に、軒飾の色も鮮やかな朱の社殿の佇む姿は、御神慮に叶い、ますます御霊の幸を垂れ給うものと確信致しております。

松明と足元を照らす提灯のあかりだけで神職の「オー、オー」と発する警蹕と奏楽の音に導かれ、大きな絹垣に覆い囲まれた大神様が装いも改まつた御本殿へ

神は人の敬いに依りて威(御神威)を増し、人は神の徳に依りて運を添う北条泰時が編纂した御成敗式目に出てくる言葉です。いつまでも心に留めて実践していきたい言葉です。



修復工事を終えた楼門

築地にひびく 銅鑼を鳴らす

新劇の団十郎・丸山定夫
妙隆寺に眠る



小町大路の中ほど、妙隆寺のこじんまりした境内の右奥の墓地に背たけほどの丸山定夫の碑がある。

新劇の団十郎、愛称「丸」さんと親しまれ、そして原爆の犠牲者となった天才俳優を懐かしむ人も少なくなかった。

わが国の新劇運動は、明治末期の坪内逍遙・島村抱月による「文芸協会」の設立にはじまり、小山内薫の「自由劇場」が火ぶたをきった。さらに抱月と松井須磨子による「芸術協会」を経て、大正十三年の築地小劇場の開場で本格的な黎明を迎えるのである。

西園寺家の爵位を継いだ土方与志は、学生時代から演出家を志し、大正十二年渡欧して舞台芸術研鑽中、関東大震災で急拠帰国、予定を変えて残り九年間の滞在費を投じて、ヨーロッパ近代戯曲の本格的移植を当面の目的とし、定員四百六十八のゴシック・ロマネスク様式の劇場を築地に建てる。創業時の同人は土方・小山内・友田恭助・汐見洋・青山杉作などで、研究生として丸山定夫・田村秋子・滝沢修・東山千栄子、さらには岸柳子・村瀬幸子、丸山定夫が参加した。その活動は五年



丸山定夫

と短かったが、演出の確立・近代俳優の養成とその後の日本演劇に計りしれない影響を与えた。この間翻訳物九十、創作劇二十七が上演され、モリエール・ゴッティエリなど十八番となる。

さて丸山は明治三十四年(一九〇一年)松山に生まれる。地元新聞の編集長だった父を小学校二年の時失い、就職して各地にいる兄たちのもとに寄宿して、万般の職を経験、苦難の日々を送る偏ら読書・詩作にふけた。しばらくの放浪の後、歌うことが好きで地方廻りのオペレッタ一座や、青い鳥歌劇団に入り、震災後は根岸歌劇団に加わった。北海道で榎本健一と親友になり、意気投合する。

大正十三年東京に帰った時、築地小劇場創立と研究生募集を知り、土方邸(養成所)を訪問、研究生となる。六月の旗上げ公演では出演しなかったが、開幕を告げる銅鑼を鳴らし、これはまた、自らへの新しい人生の開幕の合図でもあった。貧乏なので宿直員となり、人のいない舞台上で発声練習、ピアノも独占できて役者への精進を日夜怠らなかつた。

第二回公演「狼」の初舞台で兵士役、以降必ず役がついて四ヶ月後の「ゴリキー」の「夜の宿」のルカで頭角を現し、イブセンの「社会の敵」では主役を演じた。劇団の中でも最も出演回数が多い性格俳優

として重用される。

実業家の御曹子と結婚し、有閑生活にあきたらなくなり、偶々見に来た新劇に細川知歌子(ちか子)は、自らの生き甲斐を求めて入団してしまう。夫から身を隠すのを手伝ったことから丸山と急接近、細川の離婚を待つ二人は所帯を持つ。二人は長らく舞台・映画に数多く共演し、丸山は夫先輩、そしてライバルでもあった。



丸山定夫と細川ちか子

昭和三年暮、小山内の急死後、劇団は思想的・経済的対立で分裂、丸山は山・細川は土方と行動を共にし、「新築地劇団」(劇団新築地)を結成し、丸山は中心的俳優となる。演出は多喜二(監理、戦線異常なし)とプロレタリア新劇化し、この左傾化への弾圧は激しくなり、上演禁止が増える。こうして経営難、給与未払もあって、悪いことに細川が肺炎で倒れ、窮した丸山は薬代稼ぎに劇団在籍のまま、エノケンに助けを求めた。彼は丸山に百円与え、福田良介の名で出演させる。この時「おちかはなっている、そして丸山定夫は自殺した」と自嘲的文章を「婦人公論」(一月号)に載せた。

エノケン一座には半年ほどの出演だったが、回復した細川は舞台に映画に復帰したが、翌年入籍しないまま離別する。八年東宝の前身P・C・Lがトーキー映画の製作を開始

し、丸山(細川も)は専属契約して、ほぼ十年間に五十五本の映画で幅広く役をこなした。なかでも六本目の成瀬の「妻よ薔薇のごとく」(この年のキネ旬)は屈折する父親役を見事に演じ、翌十一年の犀星原作の「兄いもつと」は竹久千恵子の妹と、とつ組みあいの喧嘩をしながらの兄妹愛の表現が印象に残る名場面だった。この頃も彼は併行して舞台に出演、演出も手掛けたが、四十年八月新築地劇団は新協劇団とともに強制解散させられ、十一年の幕を降ろす。

劇団を失い芝居をやりたい丸山に、十七年五月文学座から「富島松五郎伝」で杉村の吉岡夫人の相手役として客演の話がくる。杉村は後に、「丸山は毎日ちがう演技をする。『向つ(相手役)の気持ちに触発されて』という役者としての大事な心構え」を彼から教わったと述懐する。

十七年末徳川夢声から、もう一度劇団を作らないかと誘いがあり、藤原鎌足を加えて音楽座を結成する。しかし次第に国策に沿った移動演劇しか認められないが、巡演先の丸山の松五郎は絶賛をあげる。大映は十八年稲垣浩監督、阪妻の松五郎、舞台の團井恵子をそのまま吉岡夫人で名作に仕上げた。松五郎役にほれこんでいた丸山も口惜しかっただろうが、われわれも丸山の松五郎が見たかった。

十九年一月、大連での公演の時花束を送ったという梅原房子という女性が現れて、一年ほど交際したのちに細川のあと十年間結婚生活をしてきた関原利江(国立音楽学校卒、舞台効果をしていて知りあ)と二十年五月協議離婚し、最後の愛人梅原と生活する。

終戦の年、移動演劇桜隊を結成各地を廻りはじめた。六月下旬島根・鳥取と広島を根拠地に中国地方へ出発するが、途中丸山は湿性肋膜炎を発病し、高熱をおして熱演後広島に戻る。そして運命の八月六日に遭遇、十日間の苦悶の後、蔵島の存光寺の庫裡で四十四歳の生涯を閉じる。



富島松五郎伝(無法松)の丸山と杉村

桜隊で丸山の弟子、鉄信正は最後の巡演には参加していなかった。妙隆寺が檀家の彼は、梅原房子から丸山の遺骨の埋葬を頼まれる。その後四十年丸山の知友百七十三人の醸金により、本郷新の彫刻藤森成吉の碑文で建立されたのである。碑に、「人間としてよく読み、よく歌い、よく飲み、よく恋し、友を愛し、人の世話を見、純情で敏感で、柔軟な心情を以て知る人すべてから愛された。……」とある。

六十三年新藤兼人は「さくら隊散る」というドキュメンタリータッチで被爆した九人の悲惨な最後を再現した。吉岡夫人の團井の面影も知っているだけにつらい映画で非情な原爆投下に対する怒りが改めて沸きあがるのだ。

参考図書 「築地にひびく銅鑼」(藤本恵子)、「俳優・丸山定夫の世界」(菅井幸雄・編) 二階堂白寿会 門田 京藏

お楽しみプレゼント

「やまもも」のご感想、ご意見をお寄せください。ご応募の中から宿泊券(1泊1万円)2枚をプレゼントします。締切は5月30日。鎌倉市老連事務局まで。

248 8686 鎌倉市御成町18 10
メールアドレス yumekama@onyx.dti.ne.jp

平成16年 鎌倉市老連総会を開催
~変わらなくちゃ老人クラブ~

内特密いに戸あり開種強て願このして主的行のそ気ブ
会にににに感惑い開した行化組いようしてみ運に事の手うをも鎌
との地しににもいのました事をし、織力をこめよう。営的にめて大づくりをたら活
の域て、を互な。たで展各ををな。営的にめて大づくりをたら活
の域て、を互な。たで展各ををな。営的にめて大づくりをたら活

ゆめクラブ鎌倉の動き

市老連活動の報告と情報コーナー



大久保副会長の開会の挨拶

密化を図り、サロン活動を活発にしようとの基礎固め

私たちの組織力をバネにして十六年度への飛躍的な進

をした年でした。高齢化が進んでクラブの活動力にや影がさしましたが、行事の運営も順調に進んだと思



展を試みたいと思います。変えよう、変わろう老人クラブ

鎌倉市老人クラブ連合会(平成16年度)の動き

Table with columns for dates and activities. Includes events like 'Spring Study Trip', 'Annual General Meeting', '40th Anniversary', etc.

第40回老人大学寿講座予定表

Table with columns for dates, times, topics, and speakers. Includes topics like 'Love is what we need', '60 is fun', etc.

地域出前講座(平成16年度)

Table with columns for dates, topics, venues, and times. Includes 'Health Exercise Lecture', 'PC Lecture', etc.

その他近日開催予定の行事

5月23日(日)世代ふれあいの会開催(鎌倉市立深沢中学校体育館)
5月中旬~6月中旬、地域ベタンク講習会開催

第32回 趣味の作品展

113名による力作が勢揃い

十一月十九日から二十三日までの五日間、生涯学習センター地下市民ギャラリーにおいて、第三十二回ゆめクラブ鎌倉高齢者の趣味の作品展が開



催された。今年も、絵画、書、俳句、写真、工芸、手芸など、百十三名による作品が展示された。いずれも一年間の集大成といえる力作ぞろいで、訪れた人々の目を楽しませていた。



右の2着が小林さん(写真:右)の作品

前、交通事故で入院中にも編み物をしていたところ、手先を動かすのでリハビリに良いとお医者さんにほめられた、というエピソードも。この日着ておられたシルクのポレロも、もちろん小林さんの手作り。編み物は四十歳くらいまで一度やっておくと、私の歳になってもできますから、最初はお針編みの袋や置物でも良いので、ぜひやってみてほしいですね

会場インタビュー
松竹前松寿会
小林 富江さん (七十九歳)
ページとえんじ色の、二着のセーターを出展された小林さん。いずれも細かな模様編みの入った素敵なデザインである。普段からほぼ毎日編み物をしていくとのこと。以



平成15年度功労者のつどい


3クラブ151名が表彰 樋口恵子先生の講演も

十一月二十一日、生涯学習センターホールで、平成十五年功労者のつどいが開催された。第一部の式典では、高橋市老連会長が「鎌倉市老連は、創立以来三十九年間多彩な活動をしてきました。長年にわたり活動を支えてくれました皆さんへの感謝の気持ちを込めて表彰いたします」と挨拶。今年度は優良老人クラブの三クラブ、五年在職功労会長十一名、特別表彰者三名、一般会員功労者百三十七名が表彰を受けた。中でも、百歳を迎えた特別表彰者三名(うち一名は代理)が壇上にあがると、場内は大きなどよめ

きと拍手に包まれた。

第二部の講演会には、評論家で東京家政大学名誉教授の樋口恵子先生をお招きした。長年高齢者問題に携わってこられた樋口先生の熱弁に、来場者は笑ったり、深くうなずいたりしながら熱心に聞き入っていた。

講演(要旨)
「人生百年を生きる 覚悟と責任」
 講師 **樋口 恵子先生**
 (評論家・東京家政大学 名誉教授)



人間の寿命は長い間五十年でしたが、二十世紀後半になって高齢化社会が出現しました。アジアでは、一九七〇年に日本が初めて高齢化社会の仲間入りをし、その後も次々と各国が続いていきます。二十一世紀は、アジアの高齢化社会の世紀なのです。この恵まれた人生をどう生きていくか、日本はアジアに示していく必要があります。

日本の人口の未来予測では、二〇五〇年の六十五歳以上の人口は全体の三五・七パーセント、平均寿命は男性八十一歳、

女性八十九歳。五人に一人がおばあさんです。「老婆(老爺)は一日にして成らず」。後半の五十年の生き方を、文化として残していきたいものです。

人間は、いつ、どこに、どの性で生まれるか選べません。生きる意味は、誰に定義されるのでもなく、自分で見つけるものなのです。さすがに七十歳で都知事選に出馬するとは思っていませんでしたが、少数派であろうと異論は言うべきと立候補しました。六十五で死んでいたらできなかった、面白い経験ができました。これからも、一人、一有権者として、生涯現役でいたいと思います。

一九七二年の「あさま山荘事件」をきっかけに、私たちは子供に「何にならんと得をする」と教える偏差値教育を押しつけました。私たちは秀吉(成金)になってしまったのです。また、かつて日本人は結婚好きでしたが、今では二十代後半の大半は独身です。このように、急に変わってしまったものが世の中にはたくさんあります。そして、長く生きた者ほど、この世の中に責任があるのです。私たち自身が当事者として、また生涯一有権者として、どう社会と接していくか表明し、地域社会を支える側、主権者として発言していくべきです。

生涯現役一有権者であるためには、変化を恐れず見つめる勇氣、人間の力では変えられないものを受け入れる冷静さ、前の二つを取り違えない知識、この三つが大切です。つまり、変わることを恐れず、今を生きる覚悟を持つことです。

秋の研修旅行
宮津、京都、天の橋立
 日本有数の景観と 西の古都の秋を楽しむ

十一月十六日は空に白雲の流れる晴天だった。一行百七十四名の乗るバス四台は足柄SAに合流して出発。昼食は車中弁当で先を急ぐ。名古屋を過ぎ琵琶湖の東岸の道を走って北陸の玄関口敦賀インターで左折する。

バスはやがて三方五湖に到着しレインボーライの自動車道を梅丈岳へ登る。バスを降りて記念写真。リフトでなお頂上へ行く。見晴らし公園か

ら、三百六十度のパノラマは日本海と五湖の景色が見える。五木ひろしの出身地で音楽が流れている。近くにバラ園がある。標高四百メートル、秋の日本海の潮風を受けながら咲く赤白黄の大輪の花の健気さに心打たれ、同時に旅情を和らげられた。そばに何千個もの新旧の南京錠の下がった柵があったけれど意味は判らな

い。下方に見える五湖の中の二湖には海水がまじり三湖は淡水という。湖畔には梅林が多い。ここは青梅の名産地だとか。バスは小浜市、舞鶴市の郊外や山道を走って宮津ローヤルホテルへ着いた。外はもう暗くなっており、夕食は海の幸とカラオケで楽しんだ。

翌日は八時出発して京都の清水寺参詣だった。バスは音羽山清水寺のパーキングから、少し歩いて美しい朱塗りの仁王門前で記念写真を撮った。御開帳の奥の院の御本尊を拝む。鎌倉時代作といわれる御本尊はお顔が三方にある観世音菩薩で思

の滝へ行く。行列してコップを求めた参拝客がコップに長い柄を付けて滝の水を受けている。これが清水のもとをなす諸願成就の霊水である。

清水寺を出てバスはトロッコ列車の嵯峨駅へ急ぐ。桂川の土堤道はひどい車の渋滞で歩いて近道を駅へ行つた。予定外の嵯峨野の散策もまた楽しかった。

トロッコ列車は愉快な乗り物だったけれど、有名な保津川の紅葉は時期が少し早くて見られなかった。ホテルへ着くのは遅くなった。

十八日は日本三景の一つ、九十三歳の股のぞき

つ天の橋立を見物して旅行の最後の日である。宮津湾の対岸の天の橋立に向かう。

籠神社に寄る。籠神社は丹後一ノ宮といわれ、歴史の古い神社で、伊勢皇大神宮の根本宮。社殿もまことに立派な造りで



九十三歳の股のぞき

参拝してから境内を左へ抜け、ケーブルで天の橋立の景観を見下ろす笠松公園へ登る。空気も爽やかで心が洗われた気分。天の橋立が眼下一線に見える。

股のぞき秋の橋立緑濃し

さかえ

帰途は天の橋立を目前にしながリフトで下山。バスは途中小浜市で瑪瑙工場と製品を売る土産品店に寄る。

寶石を削り出す機械とそれを磨き上げる人の技術だ。

バスは山を越えると木之本町へ出る。右に琵琶湖、左には形の美しい伊吹山が見える。関ヶ原を下車して昼食。それより一路東名高速道を走って八時半頃鎌倉に帰着した。

この長距離研修旅行は案外と皆元気で疲れた様子もなく新しい知識と活力を与えられた。

教養部 高橋 斌



音羽の滝



石坂 くに江

宝善院さんのご好意で、客間を定期的にお借りすることができました。ここを溜り場にして、新しいお友達とお話を楽しみながら、皆様方得意の手芸(折紙人形、その他)を教えられたり、教えたり。笑い声が客間に響き、和気に満ち、友情は親密さを増し、頼りになる、仲間ができる、たまり場です。

トピック 「居場所づくり」の 取り組みがスタート

市老連の推進する「居場所づくり」の取り組みが各地域で本格化している。昨年度から実施された2例を紹介する。

ひとやすみ 一休 手広喜楽会

町内会の篤志家小島一久氏の厚意で借家を改造し、美術館をかねてお年寄りが自由に休んでもらえるようにと、一軒家を名前も一休でしたしみやすく、開放してくれました。広さはトイレ台所を含めて二十畳位で飾り棚に古美術品額などがあり部屋の造りはフローリングに絨毯応接間造りになっています。



お陰様で喜楽会の組長会議、家族のビンゴゲームや麻雀など、また多人数では座布団が二十枚ありますので、深沢支部十六クラブの会長会議、単位クラブの事情を聞く懇談の場ができました。地域のお年寄りの楽しい遊びと笑いの集いの場にしたいと思います。

会長 坂尻 正行

さわやかサロン

地域住民のための社交場サロンの開設に支援します。

地域の方が歩いていける場所、地域の方とふれあうことにより見守り支えあう地域作りを目指し、老人クラブ連合会では、開設する単位老人クラブに対し支援していきます。

文芸

腰越第二笹りんどう会 中久喜たい

大いなる夢をかかげて年明け

神仏に委ねし余生初詣

平凡に月日流れて小正月

忘れさる事の安らぎ寒の明

春めきて海きらきらと無人駅(鎌高前)

腰越第二笹りんどう会 八原まさ子

十二月八日を語る人老いて

笹鳴の何を好んで坪庭に

古寺に人の声して梅香る

山の端に静かに夕日冬至かな

急ぐ事も無き日や猫の恋

腰越第二笹りんどう会 志摩 悦子

立春の街見下して露座観音

冬ざれの一村守る道祖神

冬晴や坑に濡身の鳥二、三

リスは木に下手ななきゆづを手に

寒明けて雲はゆつくり動き出す

山ノ内梅鶯会 松岡美代子

ひそやかに命束ねし蛸蚪の紐

日脚のび小さきゆとり生れけり

春光をのせつ抜れつ瀬の流れ

山ノ内梅鶯会 坂井ちか子

花所望「太郎冠者」なる椿活け

シクラメン古き調度もはんなりと

門川に春鴨番い遊びをり

山ノ内梅鶯会 山下カヨ子

風光るプラス思考の八十路なる

玄閑のろう梅ほのか冬ぬくし

厳寒の朝のコーヒーたちこめり



山ノ内梅鶯会 高橋 斌

せくらぎは音やわらかに春の水

春の色天の橋立ひとすじに

盆梅の匂う濡れ縁鶯の声

浄明寺寿会 山本 照子

春風を貰ひヨツトは沖めざし

地虫出ず葉蘭ひそかに花を持ち

街の灯も去り朧夜の天城越え

牧草の風のきらめき初雲雀

白樺の霧より白し百千鳥

詩

同窓会 名越きらく会 上田 花子

同じ学校だから

同じ年令だから

同じ時代の考え方だから

いい

一言話しても

通じ合う 何かがある

昔 喧嘩をした人にも

わだかまりが消えて

話せるから いい

あと何年 生きられるか

最後の二人になっても

続けて行くと言う

意気込みの

私たちの

小学校の同窓会

(鎌倉市立第一小学校卒業生・八十五歳)

● 高齢者向け乗車証の購入費を助成します ●

鎌倉市では、平成15年度から「鎌倉市高齢者バス割引乗車証購入費助成事業」を実施していますが、16年度からは江ノ電電車を含め助成します。

対象となる方 平成16年5月1日現在、75歳以上で鎌倉市内に住所を有する方。

購入できる期間 平成16年6月1日から12月31日まで。

助成額 1人年1回2,000円

《助成対象となる高齢者向け乗車証の概要》

Table with 5 columns: 会社名, 乗車証名称, 利用運賃等, 券種と助成前販売額, 購入時に必要なもの. Rows include 江ノ電バス, 神奈中バス, 京急バス, 江ノ電電車.

《高齢者向け乗車証販売場所及び問合せ先》

Table with 3 columns: 会社名, 乗車証販売場所, 問合せ先. Rows include 江ノ電バス, 神奈中バス, 京急バス, 江ノ電電車.

購入した乗車証および回数券は、払戻し・返品できませんので、利用する路線等をよく確認して購入してください。



ファミリーサポートセンターでは、家事援助及び専門的な介護を要しない程度の外出支援(付き添い)などを行います。



稲村ガ崎稲穂会

渡部 光治

これがまあ終の栖か雪五尺 言うまでもなく、稲村ガ崎は風光明媚なところですよ。

この地を越して来た当初は、道路沿いの借家でした。その後高台の現在の土地を購入して移りました。

この場所を選んで、本籍もここに移しました。田舎の両親も喜んで、気候にも恵まれた土地だから未永く住むようにと言っていました。

最近、駅前建つ分譲マンションの広告が目につき、私には以前から住まいは戸建てに限る、と思いついていました。

ここは道路から約十メートル、眺望は抜群で、左に逗子・葉山・城ヶ島、正面に大島、右は真鶴半島・江ノ島・箱根連山・富士山と眺めは、実に雄大です。

道路から自宅までの階段が五十段近くもあり、階段の上り下りにも苦痛を感じ、傾斜面の除草・植木の剪定も楽しみだけではなくなっていました。

鎌倉を住まいとし、藤沢駅前のマンションを隠居所にできれば最後の人生も一段と楽しく、元気に長生きできるのではないのでしょうか。

眠れない夜には： 高齢者福祉課保健師

最近、よく眠れないという悩みを抱えている人が多いようです。睡眠の満足感人はそれぞれ。

「眠り」のために何か工夫をされていますか？ 今回は最近私が学んだことから二つ。まずは起床時間を一定にする。

「年を取るにつれ、夜の睡眠が浅くなり、熟睡できなくなる」のは生理的なもの。

Large empty table grid at the bottom of the page.

鎌倉散歩

光照寺 そのクルス紋が不思議



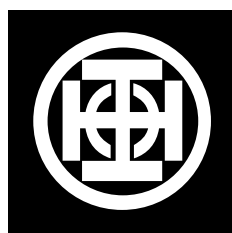
光照寺は時宗西台山英月院光照寺と号し、北鎌倉にある。当山は、一遍上人が弘安五年(一一八二)鎌倉入りにあたっての法難霊場であり、開山は一遍上人の弟子一向俊聖上人であったと伝えられている。

石段を登り、山門でまず目につくのが、山門の欄間に取り付けられた「中川久留子」といわれるクルス紋である。しかし、この山門は最初から光照寺にあったものではなく、台山にあった東溪院が明治五年に廃寺となり、本尊の釈迦如来像と山門が光照寺に移され

たのである。

東溪院は、豊後国岡城の城主中川久清が娘の供養のために建立した菩提寺で、山門に家紋の「丸に彎紋」を付けたのだった。十字形を基本とすることから「中川久留子」といわれるようになったと思われる。それは別にしても不思議なことには、寺には昔から伝わる切支丹用の大小の燭台があり寺では今でも使っている。山門の右脇には、台座に

誰々の母、誰々の母とびつしり刻みつけた子育て地蔵があり、往時農村の母親の子育てにかける熱い思いが伝わってくる。



中川久留子(図)

山門の左脇には、見落とすような小さな石の祠がある。これが「おしゃぶきさま」で毎日お参りすると年寄りや子供の咳の病は治つてしまふという。



子育て地蔵

JR北鎌倉駅から大船方向に少し歩くと、鎌倉十橋の一つ十王堂橋がある。このあたりにあった十王堂は明治に入って取り壊され、川は昭和三十年頃暗渠になり、十王堂橋も片側だけの欄干になってしまった。十王堂橋を

原稿募集 | 投稿規定 |
 会員の皆様からのご投稿をお願いいたします。
 原稿用紙は「やまもも」専用紙(12字×13行)を使用。
 用紙は編集部宛に請求下さい。
 「単位クラブ活動紹介」六百三十文字まで。活動の様子を写した写真二枚添付。
 「文芸」エッセイ、詩、短歌、俳句、川柳など。エッセイは六百字程度。
 「鎌倉観光スポット」観光客にあまり知られていないが、ぜひ紹介したいスポット。六百六十文字まで。写真二枚添付。
 原稿締め切りは平成十六年七月三十一日。
 紙面割りの都合で、原稿の採用、内容の一部修正等についてはご一任願います。原稿等は返却いたしません。

編集後記
 目に青葉やまほととぎす初かつお 新緑が過ぎて風もさやかに頬を撫でていきますが、この頃は蒼空に泳ぐ鯉織りの風物詩を目にする機会が少なくなりました。この頃には「やまもも」の花も散り、六月には果実の季節のようです。野山が活気づいて私たちの行事にも清新の気を注ぎたいものです。この度も充実した広報紙をつくることができました。ご協力を感謝申し上げます。
 都筑 健一

明治三十六年八月二十九日生まれの沼井さんは、生まれも育ちも鎌倉で、先祖は五百年以上前から鎌倉に住んでいたらしいという、生粋の鎌倉人。小学校を卒業してからずっと農業にた

ずさわりの、実に八十五年以上のキャリアを持つ。長男の利雄さんも「父の作る野菜にはかなわない」と脱帽するほど。現在も畑に出て野菜を作り続けているが、この畑仕事は健康の秘訣となつてい

寺分楓会では、昭和六十三年までの約十年間、三代目会長として活躍した。老人クラブの旅行では、得意の謡で鍛えた喉を活かし、当時の流行歌をカラオケで歌ったそうだ。ちなみに、現会長の大野秀夫さんは娘婿に当たる。大野会長は「百歳になつた今でも背筋がぴんと伸びていて、近所でも評判なんです」と語る。

とはほとんど自分です。家事は何と九十代になつてから覚えたという。百歳になつてからの生活について、「これからは畑はやるけど、のんびり過ごしたい」と語る沼井さん。鎌倉で過ごした一世紀のうちに培った、穏やかな表情が印象的だった。



今号の **やまももさん**
 寺分楓会
 沼井金秋さん(100歳)

以前は町内会長を勤め、昭和四十五年設立された

利雄さん夫婦と孫三人と同居しているが、家の離れで寝起きし、身の回りのこ

沼井金秋さんは、残念ながら平成十六年三月二十三日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

スポンサー各位へ御礼
 「やまもも」発行に際しご協賛いただきました各位に厚くお礼申し上げます。本紙は会員相互の交流と生きがい向上に、さらに内容の充実に励んでまいります。今後も倍旧のご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。
 ゆめクラブ鎌倉

老人クラブへ参加しませんか
 鎌倉市老連は昭和39年9月に創設しました。今年で創立40周年を迎えます。現在市内には103クラブ・会員4,598人の方々が、生きがいと健康づくりのために、老人クラブの仲間づくりを基礎に相互に支え合い、楽しいクラブづくりに励んでいます。あなたも参加してみませんか。市内在住60歳以上の方であれば、どなたでも参加できます。
 問い合わせ先 鎌倉市老人クラブ連合会事務局 23-3000(内線2467)
